

敬和会と地域をつなぐ広報誌【リンク】

Link

vol. 15 夏号

take free

ご自由にお持ち帰りください



特集

大分岡病院の働き方を考える



大分岡病院の働き方を考える

大分岡病院

— 働き方改革 —

少子高齢化が急速に進む日本。労働力不足を懸念し、国は「一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジ」を掲げ、働き方改革の推進を行っています。

また、大分県では、誰もが意欲と能力に応じていきいきと活躍できる社会の実現、人口減少社会における労働力不足の克服に向けた働き方改革の推進を目的に、「大分県働き方改革推進会議」を2016年12月に設置しました。
(2018年5月発行 おおいた働き方改革 取組事例集より引用)

大分岡病院の働き方改革

— 人事部長に聞く —

1954(昭和29)年の岡医院開業から、65年を迎えた2019(令和元)年の大分岡病院は、病床数224床、診療科28科、職員数593人(男性143人、女性450人)・6月1日現在)で、急性期医療・救急医療に携わっています。また、地域医療支援病院として、センター方式で当院独自の高度医療、専門医療に取り組みながら、24時間365日、救急患者さんの受入を行い、専門職の力を最大限に発揮してチームで治療を行っています。

当院はワークライフバランスの対策(P4表1)に早期から取り組み、時間外勤務の削減や年次有給休暇の取得、人材確保や健康経営など、働き方の改善を積極的に行ってきました。



人事部長
武石 智子

2014年6月には多職種のメンバーで構成したプロジェクトチームを立ち上げ、各部署で時間外勤務の削減に取り組み、2015年には前年比時間の5.0%、2016年には5.4%削減と、成果を上げています。削減できた金額は賞与で職員へ還元しています。



年次有給休暇の取得率は、(P4グラフ1)のように向上中で、取得率100%を目指し、各部署に協力を求め進めています。事業所内保育所の設置や、病児保育センター、子育てサポート、イクボス宣言、女性活躍の支援など、これまでのワークライフバランスの取り組みが評価され、2017年10月17日「ワークライフバランス推進優良企業」の表彰を大分県から受けました。

医師の働き方改革

— KAIZEN室
室長・医師に聞く —

働き方改革法案が2019年4月

から施行され、医師に関しても1日8時間、週40時間を基本労働時間とし、5年間の猶予内で改善していくよう通達がありました。医師は長時間労働が当たり前になっており、当院でも以前から改革には取り組んでいました。診療体制を見直し、早く帰宅できるような環境づくりと意識改革を行い、当直明けの勤務負担緩和も進めています。また、医師が診療に集中できるように、他スタッフとの協力によるワークシェアや※1タスクシフティングにも力を入れています。各医師にはタイムカードの集

計による勤務実態を通知し、残業時間のボーダーを超えた場合は、残業を減らす工夫を考えてもらっています。

「※2応召義務」については医師として、できるだけの対応を心がけていますが、中には体を壊す医師も出てきます。医師が健康でいてこそ良質で安全な医療を提供できると思っており、当院では緊急でない患者さんへの病状説明などは勤務時間内にと、患者さん側へもご協力を頂いております。医療は皆で支え合うものとして、これからも地域住民のニーズに応えつつもご理解を頂きながら、医師の働き方改革を進めていきたいと思えます。

※1 タスクシフティング 医師でなくてもできる業務を他職種へ移管すること。

※2 応召義務 診療に従事する医師は正当な事由がなければ患者からの診療を拒んではならないという日本の医師法の一つ。

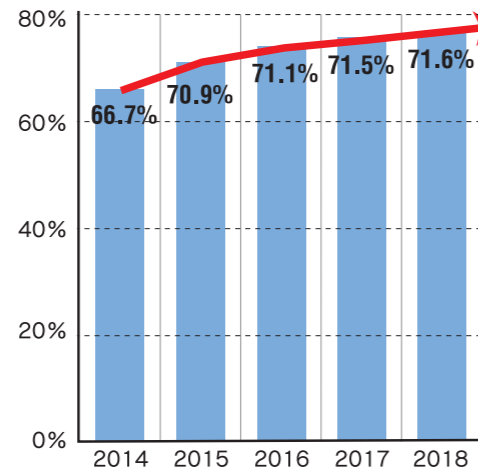


KAIZEN室 室長
循環器内科部長
宮本 宣秀 医師

(表1)ワークライフバランスの取り組み

1989	事業所内保育所開設
1997	病児保育センター「ひまわり」開設
1999~2002	育児休業・介護休業 導入 継続雇用制度 導入
2005	男性育児参画制度 導入 配偶者出産休暇制度 導入
2009	メンタルヘルスケア対策 開始 臨床心理士採用
2011	リフレッシュ休暇(年3日間の特別休暇) 導入 くるみん「子育てサポート企業」認定(厚生労働大臣)
2014	学童保育 開始
2016	敬和会でダイバーシティを推進 女性の活躍を推進 時間外削減の取り組み開始
2017	ワークライフバランスの推進優良企業表彰(大分県) イクボス宣言 パパママ休暇(子が1歳になるまでに年3日)・インフルエンザ休暇(年3日間)を新設(特別休暇) KAIZEN室設置 敬和会アカデミープロジェクト始動 健康経営宣言 職員保健推進室設置
2018	生涯健康県おおいた21推進協力事業所認定(大分県)
2019	敬和会で人権尊重社会づくり推進功労賞受賞(大分県)

(グラフ1)年次有給休暇取得率



理想の働き方へ 改革する

他にも、2016年4月からはダイバーシティ(多様性を受け入れ、新たな改革を促進する)の取り組みがス

看護師の働き方で改善すべき項目は二つあります。一つ目は時間外勤務です。時間外勤務を削減するために「新たな看護方式」を取り入れる準備を行っています。それは、看護師の無駄な導線を省き、患者さんのそばで仕事ができる環境をつくるというものです。看護師はその都度ナースステーションに戻らずに、必要な医療物品を持ち、基本的に患者さんの病室内に常駐し、ケアや処置、看護記録の入力などすべてをそこで行います。そうすれば移動時間の削減はもちろん、ナースコールの減少、転倒転落の予防にもつながると思います。患者さんに寄り添う時間も増え、病状の変化にも早く気付けるようになります。患者さんと向き合う時間が増えることで、さらに、やりがいや達成感が味わえるようになり、看護師の働く意欲にもつながると考えています。「新たな看護方式」に取り組む上で重要な点は看護師長の采配です。日々の患者さんを受け持つ看護師の決定、残務の確認と調整、指示など、定時で業務が終わるように、的確な指導が必要とされます。

看護師の働き方改革 —看護師長に聞く—

二つ目は、身体を休める環境を整える11時間の勤務間インターバル(休息時間)についての検討です。例えば、日勤(8:30~17:30)の看護師が次に深夜の勤務(0:30~9:00)に入ると休憩できる時間は、7時間で、11時間のインターバルが保てない状態になります。その間に勉強をして睡眠時間を確保するとなると、十分な休息が得られず、仕事の効率が低下してしまうことも考えられます。病棟はすでに一日2交代勤務に移行して対応していますが、今後、義務化されていくと予想される勤務間インターバル11時間を確保できるように、3交代勤務のICU(集中治療室)や手術室や内視鏡室などの待機を行っている部署での対策が必要です。



看護師長
吉住 房美

ターゲットし、外国籍看護師や介護職の雇用、障がい者の雇用、*リモートワークやパラレルキャリア(副業)などの柔軟な働き方の推進も導入しています。2017年には法人内で人材の育成に力を入れた敬和会アカデミープロジェクトが始動し、また同年に病院長が健康経営宣言を行い、職員の健康保持増進にも努めています。やりがい、働きがいを持って、成長を感じながら、健康で働き続ける。そんな職場づくりの実現に向け邁進しながら、全職員が直接的に働き方改革に関わり、働き方のイノベーションを起こしていきたいと考えます。

*リモートワーク 会社に出勤せずにその他の場所、自宅などでパソコンなどのICTを活用して仕事を行うこと

「働きながら学ぶ」

多様な働き方の推進と学びの支援

職員がキャリアを形成し、成長していくことは個人の成長だけでなく組織の成長にもつながります。大分リハビリテーション病院では、人材育成の取り組みを行っていますが、大きく変動する社会の中で、今後どのように自らが主体的・自律的にキャリアを形成していくかが重要となってきます。

「キャリア形成」のための学び方はいろいろあります。当院には、働きながら大学院の修士課程で学んだ職員が8名在籍しており、そのうちの2名のスタッフを紹介します。



在宅支援部 看護師
安部涼子
大分県立看護科学大学大学院
老年※NP(診療看護師)コースを修了

患者さんの身体状況を理解することができれば、入院中の体調不良を早めに察知し、急変を減らすことができます。大学院で学ぼうと思ったきっかけは、患者さんの身体状況をより深く理解し、治療の支援、退院後に望む生活ができるようお手伝いしたいと考えたからです。

個人の事情や就労の時間などに応じて履修期限を調整できる長期履修制度を利用して、業務終了後に通学し

ながら3年で大学院を卒業しました。

研究テーマは、「慢性疾患を持つ高齢者に対する特定看護師の活動モデルの検討」で、高齢者に多い健康相談の事例（高血圧や足腰の痛みなど）を分析し、その結果に基づいて、NPが看護に当たる上で必要な手順書や健康相談のプロトコール案（原案）等の研究を行いました。看護での視点に加え、臨床理論などの考え方やレポート作成など大変なこともありましたが、卒業後はより自信を持って看護実践ができるようになりました。

※NP(診療看護師) 必要とされる診療行為を、医師や他の医療従事者と連携・協同し、効果的・効率的、タイムリーに実践できる能力を備えた看護師のことで、一般病院の外来、訪問看護ステーション、老人保健施設、老人福祉施設などで、医師の包括指示の下でプライマリケアを提供できる。



リハビリテーション部 作業療法士
安部美咲
大分大学大学院
医学研究科専攻中

大学在籍中は作業療法士としてのスキルアップのために大学院に進みたいと思った時期もありましたが、まずは実際の現場を見てみようと思職することにしました。認知症の患者さんと接する中で、「認知症患者さんのためにもっと作業療法士として関わられることはないのか」という気持ちが日に日に強くなりました。働きながら大学院に

進学した職場の先輩に相談し、一度は諦めた大学院への進学を決心しました。業務終了後、大学で授業を受け、現在、指導教員とともに研究テーマ「認知機能と日常生活の活動量」の研究を行っています。

仕事と両立できるか不安でしたが、職場のサポートもあり、充実した毎日を送っています。普段の臨床では、疑問に思ったことを上司や先輩に質問して教えてもらう時間が限られるので、大学院で理論立てて、じっくり説明を受けられることに満足しています。学んだことを臨床の現場にフィードバックしたいと思います。

近年、個々人の働き方や価値観、ライフスタイルなどは急速に多様化しており、それにあった働き方や学び方が求められています。当院では、業務内容や業務時間への配慮、ノー残業デーの実施や積極的な有給取得ができる職場環境づくりなどを通して多様な働き方、学び方への支援を行っています。

大分リハビリテーション病院の理

念は、「地域の安全と笑顔を守る医療と福祉を提供します」です。この理念を実現するには、スタッフ一人ひとりのスキルアップは欠かせません。今後このような取り組みを推進し、主体的で自律的な人材を育成していくことで、これからも地域の皆さんに、より良い医療・介護サービスが提供できるよう心がけていきたいと思っています。

障がいのある方に 働く楽しみや喜びを

地域生活サポートセンターけいわ(以降、「けいわ」とする)は、障害福祉サービス事業者として、機能訓練や生活動作訓練、就労訓練、スポーツリハビリ等の実践的なトレーニングを中心に行っている自立訓練(機能訓練)事業所です。「けいわ」では、就労意欲の高い利用者さんが多く、就労訓練を行って、社会と



のつながりを持ちながら生活できるように、支援をしてきました。

しかし、自立訓練を終了した後、大分市には身体に障がいのある方や難病の方を受け入れる就労支援事業所が少なく、社会的な課題に直面しました。そこで、「けいわ」を卒業した方の選択肢を広げるべく、2018年12月就労継続支援B型事業所を併設しました。

就労継続支援B型事業所とは、障がいのある方の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律である障害者総合支援法に基づく福祉サービスの一つです。障がいや難病のある方のうち、年齢や体力などの理由から、企業等で雇用契約を結んで働くことが困難な方が、軽作業などの就労訓練を行うことができます。

現在、就労継続支援B型事業所を8名の方が利用しています。外部企業から委託されたホテルのアメニティグッズや紙袋作成、法人内から受託した名刺作成、シュレッダー業務等に取り組んでいます。

ます。作業をして得た収入は、利用者さんに工賃として毎月お支払いしています。

また、併設している『けいわ』の機能訓練室を使って、午前・午後の計2回、運動を行う時間を設けています。利用者さんの中には、作業中、長い時間座ることが身体への負担となる方や、日常生活の中で身体を動かすことが難しい方もいます。作業だけではなく、運動する機会を提供し身体機能の維持を目指すことも重要であると考えています。



身体に障がいのある方や難病の方には、作業等の就労支援を行っていくだけではいずれ身体機能が低下し、在宅での生活が困難になる方も出てくるでしょう。在宅での生活を長く継続し、働くことへの楽しみや喜びを感じながら日々を過ごし、少しでも充実した生活が行えるよう、「共に考え、共に歩む」を忘れずに、これからも利用者さんと一緒に歩んでいく、そんな事業所を目指していきたいと思えます。



訪問診療を スムーズに行う働き方へ

すばるは医師1名、看護師2名、事務（※メディカルアシスタント1名を含む）2名の少人数体制で運営を行っています。超高齢化社会が進むにつれ、年々、訪問診療を希望する患者さんが増加し、患者さんの多くは、発熱や嘔吐・下痢、呼吸困難などで、体調の急変症状を引き起こすケースもあります。そのため、急な訪問診療が必要となり、その日のスケジュールが予定通りに進まず、時間外の勤務になることもあります。

そこで、すばるでは「診療班（医師と看護師）」と「検査班（看護師とメディカルアシスタント）」の2チーム体制を取り、訪問診療に取り組んでいます。訪問診療を行っている在宅患者さんの急変時に診療班が直ちに往診できない場合は、「連絡を待つのではなく、情報を取りに行く」という考え方を基本に、先に検査班が在宅患者さんの元へ向かって必要な検査を行い、緊急性が高い場合は、診療班に連絡します。また、必要に応じて速やかに救急車を呼び、二次救

急指定病院へ搬送します。

この体制により、訪問診療の急変時にも、迅速でフレキシブルな対応が可能となりました。また、電話連絡や電子カルテシステムを活用することで、スタッフ全員が患者さんの情報を共有し、早めの対応を取ること、スケジュールの管理がうまくいき、時間外勤務の削減につながっています。

今後も患者さんのために情報共有や迅速な対応を行うことはもちろん、スタッフの業務がスムーズに行えるように働き方の改善を進めていきます。



※メディカルアシスタント 施設や利用者さんの自宅に向いて医療を行う医師や看護師をサポートする人

定年後の多様な ライフスタイルに応じた働き方

令和元年の佐伯市の生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は約4万人ならずで年々減少しています。特に佐伯市は人口に対して医療機関や介護施設が多く、医療職員の確保は困難を極めています。

そこで佐伯保養院では、65歳の定年後の職員で、続けて働くことを希望する方には、1年単位の契約で継続雇用を行っています。最長4年間の継続雇用をしている方がいます。また、本人の要望を踏まえて勤務日数や勤務時間を決めています。週に4日勤務、短時間勤務など自分のライフスタイルや体力に応じた働き方が選択できます。現在、佐伯保養院にはこの定年後継続雇用の職員が11名います。

精神科病院の佐伯保養院では彼らは患者さんや他の職員から頼られる方たちです。精神科疾患の患者さんの対応には、社会性のある経験豊富な方や技能に優れている方が必要とされます。また、入院期間の長い患者さんには家族や親戚のような存在となっていま

す。定年後継続雇用の方たちは、やりがいを持って自分のペースで楽しく働いています。



あなたのことをもっと知りたい。敬和会で働く輝く人にインタビュー！

医師と看護師と患者さんの懸け橋に

診療看護師(NP)とは、一般社団法人日本NP教育大学院協議会が認めるNP教育課程を修了し、NP資格認定試験に合格した看護師です。医師の包括的指示により、手順書を基に診療の補助を行うことができます。現在は、保健師助産師看護師法が定める特定行為(21区分38行為)を実施することができ、例えば、脱水症状に対する輸液による補正やインスリンの投与量の調整、人工呼吸器の設定の変更などがその一部です。このような処置を必要とする患者さんに、医師を待たずに、タイムリーにケアができ、担当看護師も安心できる、医師、看護師、患者さんの懸け橋となっています。

大分岡病院の支援、スタッフの協力のおかげで、2013年4月に大分県立看護科学大学大学院に入学し、働きながら2年間勉



看護師・診療看護師(NP)
大分県立看護科学大学大学院
老年NPコース修了
日本DMAT会員登録
松久美さん

学に励み、2015年3月に卒業することができました。卒業2年間は、医師の指導の下で臨床研修を受ける中、傷の処置・創傷に興味を持つようになりました。アセスメントや臨床推論能力を基に、創傷処置の技術も身に付けてケアできることは、看護師の得意とする分野ではないかと考えました。創傷ケアセンターの医師の下で、『なぜ創(傷)ができる』『なぜこんなところに』『なぜ治らないのかなど、創一つを栄養面や生活環境など多方面からみて、『なぜ』と疑問に思い、医師やメディカルスタッフとディスカッションを重ね、ケアしていくことにやりがいを感じています。

今後は、医療支援を必要とする施設や地域に向き、患者さんの全身の状態を探っていく、*フィジカルアセスメント能力を磨いて、疾病の予防や早期発見、ケアに携わりたいと考えています。

*フィジカルアセスメント
問診、視診、聴診、打診、触診などで患者の身体診査を行い、情報を集めて分析した後、患者さんにあったケアを考察すること

敬和会管理栄養士の

とっておき
レシピ

すいかのスムージー



1人分 エネルギー120kcal/塩分0.1g

ミキサーがない場合は、
ジューサーでも作ることができます。
ヨーグルトの分量は、
お好みで調整してください。
水分やビタミンCを補給して
暑い夏を乗り切りましょう!



管理栄養士
坪田尚実さん

【作り方】

- 1 すいかは種を取り除き、一口大にカットする。
- 2 (写真のように3層にする場合) カットしたすいかをフォークで軽く潰し、果肉と果汁に分ける。
- 3 果肉にヨーグルトを混ぜ、ミキサーにかける。
- 4 一口大にカットしたキウイとヨーグルトを混ぜ、ミキサーにかける。
- 5 下から4・3・スイカの果汁と層になるようにコップに注ぐ。
- 6 出来上がったスムージーを冷蔵庫で30分程度冷やすとより美味しく召し上がれます。

【材料】

- すいか 1/16カット(約120g)
 - ヨーグルト 25g
 - キウイ 1人分 1個
 - ヨーグルト 25g
- ※果物は冷やしたものを使用。

【すいか】

アミノ酸として利尿作用を高めるシトルリンが多く、腎臓病に予防効果があると言われています。熱中症予防の水分補給にも最適。



【キウイ】

ビタミンCや食物繊維が多く含まれています。ビタミンCは、コラーゲンの合成に必須のビタミンです。



この街・この人



大分市内でたこやきの移動販売を続けて45年。人気のたこ焼き屋「さんたのたこやき」を営む頼永さんにお話を伺いました。

よりなが こうじ
頼永 公次さん

1974(昭和49)年に、たこやきの移動販売を開始。2017年8月第1腰椎圧迫骨折で大分リハビリテーション病院に入院し、退院後は通所リハビリを利用して回復、2019年2月にリハビリを終えた。大分リハビリテーション病院が開催する市場・大分リハマルシェ等でもたこやきを出店している。



移動販売にしたのは、色々な場所に出向いて、自分の好きな場所を選んで販売できるからです。小さい子どもはもちろん、小さかった子どもが大人になっても「さんたの歌」を聞きつけて、「おじさん、たこやきちょうだい！」と笑顔で買いに来てくれるのが、私にとって最大の喜びです。

—お店のアピールをお願いします—
常にアツアツを食べてもらいたいから、香ばしいソースと青のりが香る出来たてをお渡しするように心がけています。



頼永さんの移動販売車



—たこやきの移動販売を始めたきっかけは何ですか?—
ずっと会社勤めをしていましたが、友人に誘われ、うまいと評判のたこやきを買に行ったら、頬張ったたこやきの味に驚き、何とも言えない幸せな気持ちになりました。その時、自分の進むべき道はこれだと感じ、1974(昭和49)年3月、35歳の時にたこやきの移動販売を始めました。

—今後の夢や目標はありますか?—
たこやき販売は私にとって仕事ですが、人生を楽しむ趣味みたいになっていきます。45年間続けて来られたのもお客様あつてのことで、感謝の気持ちでいっぱいです。いつもそばで助けてくれる妻と元気なうちで温泉巡りをしたいですね。たこやきの移動販売をできる限り長く続け、たくさんのお客様の笑顔に出会いたいと思います。

ON TIME 私の OFF TIME

頼れる地域のドクターの意外な一面!



安東循環器内科クリニック
院長 安東 英弘先生

父の後を継いで開業して早25年になりました。日々、仕事に追われる毎日です。

趣味は読書と映画鑑賞だったのですが、4年前、大分トリニータ観戦に行つてから、大分トリニータにはまってしまいました。ホームスタジアムでの大分トリニータ観戦と、ダゾーン(スポーツ関連の動画コンテンツ配信サービス)によるテレビ観戦にワクワクしています。大分トリニータの自称サポーターとして、選手とともに戦つて、日頃のストレスが解消すると、仕事への活力がみなぎります。

大分トリニータは、今年J1に昇格し、令和元年5月18日現在、7勝3分け2敗で、J1で3位という快進撃を続けています。その原動力となっているのは、注目さ

—たこやきの移動販売を始めたきっかけは何ですか?—
近い将来、ホームゲームもアウェイゲームもすべてスタジアムで応援したいと思っています。みなさんもホームスタジアムに来て、大分トリニータを応援してください。

また、ホームスタジアムで、サポーターによる熱狂的な応援合戦が繰り広げられますが、まさに学生時代の運動会の応援合戦を思い浮かべ、懐かしく楽しい気分になります。

れている監督の戦術はもちろんのこと、監督と選手とサポーターが一体となって戦っていることにあると思います。大分トリニータを応援する中で、どんな競技どんな仕事もチームワークが大切だと実感しています。



©OITA F.C.

大分トリニータを応援しています

安東循環器内科クリニック
〒870-0917 大分市高松1-4-4
TEL.097-551-0814
診療科目 内科・循環器内科・呼吸器内科
リハビリテーション科
診療時間
月曜～金曜日 午前 9:00～12:30
午後 14:00～18:00
木曜日 午前 9:00～12:30
午後 往診
土曜日 午前9:00～12:30
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

社会医療法人敬和会



大分岡病院

大分岡病院

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11
TEL.097-522-3131 FAX.097-503-6606
TEL.097-503-5033(コールセンター)



大分 リハビリテーション病院

大分リハビリテーション病院

〒870-0261 大分県大分市志村字谷ヶ迫765番地
TEL.097-503-5000 FAX.097-503-5888



敬和会 健診センター

敬和会健診センター

〒870-0261 大分県大分市志村字谷ヶ迫765番地
TEL.097-503-5918 FAX.097-503-5886



介護老人保健施設 大分豊寿苑

大分豊寿苑

〒870-0131 大分県大分市皆春1521番地の1
TEL.097-521-0110 FAX.097-521-1247



在宅支援クリニック すばる

敬和会すばる

〒870-0147 大分県大分市小池原1021
TEL.097-551-1767 FAX.097-551-1722



佐伯保養院

佐伯保養院

〒876-0814 大分県佐伯市東町27番12号
TEL.0972-22-1461 FAX.0972-22-3063

敬和会 Topics

【**入場無料**】第9回 世界ハートの日 市民公開講座 【**申込不要**】あなたの心臓、大丈夫?! ~予防と運動~

心臓の病気のこと、どれくらい知っていますか。あなたの心臓は大丈夫ですか？日本人の死亡の原因でがんに次いで、第2位となるのが心臓の病気です。心筋梗塞、狭心症、心臓弁膜症など、心臓の病気について一緒に学び、生活習慣を見直しましょう。



【日 時】9月23日(月・祝) 午後1時～4時予定 [開場午後12時30分]

【場 所】ホルトホール 3階大会議室 【定 員】300名

【内 容】講演1「心臓病の予防と治療～狭心症・心筋梗塞について～」

心血管センター長・循環器内科部長 永瀬 公明

講演2「低侵襲心臓手術と積極的リハビリ介入による早期社会復帰」

副院長・心臓血管外科部長 迫 秀則 理学療法士 皆田 渉平

特別講演 「1日3分の運動習慣で『サハラ砂漠マラソン250km』走れるようになった」

砂漠ランナー・ヨガインストラクター 水岡 紗希氏

【問い合わせ】大分岡病院(戦略広報室 合澤・岡田)

☎097-522-3131 平日 午前8時30分～午後5時

【**参加無料**】大分豊寿苑介護教室

高齢者を支える家族を元気にするための勉強会を行います。介護に不安のある方や、もしもに備えて勉強したい方など、どなたでも参加できます。

【テーマ】介護家族のストレスマネジメント

【日 時】9月29日(日) 午後1時30分～3時30分

【場 所】大分豊寿苑 1階ホール

【申し込み・問い合わせ】大分豊寿苑(松田・唐莉) ☎097-521-0110

【**参加無料**】大分リハマルシェ 秋 開催! **【出店者募集中!】**

「大分リハマルシェ」の秋開催が決定しました。地域の方々にご協力いただき、地元の採れたて野菜、果物、パンの他、大分東高校による手作りジャムやジュース、花の販売などを行います。また、健康体操、体力測定、楽しく運動するコーナーなどもあります。地域の皆さまをはじめ、多くの方のご来場をお待ちしております。ワイワイとにぎやかな大分リハマルシェにぜひお越しください。



【日 時】10月20日(日) 午前9時30分～11時30分

【場 所】大分リハビリテーション病院

【問い合わせ】大分リハビリテーション病院(遠山) ☎097-503-5000